

令和6年度第3回田村市公共交通活性化協議会議事概要

日時	令和6年12月24日（火） 午前13時30分～14時30分
場所	田村市役所 301会議室
報告事項	（1）田村市公共交通活性化協議会委員からの意見等について
協議事項	（1）地域公共確保維持改善事業に関する一次評価案について （2）田村市における自動運転事業について
概 要 1 開会 2 あいさつ 3 報告 （1）田村市公共交通活性化協議会委員からの意見等について 事務局より説明 質疑応答 （委 員） ● 都路診療所バスの活用を具体化するにはどのようにしたらよいか。 （事務局） ● 運行計画、費用負担の整理が出来れば活用可能と考える。 ● 都路診療所利用者の送迎を第一に、住民ニーズがあることを確認した上での取組み開始となるため、区長にはご協力をお願いします。 （委 員） ● 現在の送迎の運行計画の中で、経路途中に行政局などに回ることであれば活用出来るのではないか。運行費用の負担については所管課で連携をとって整理していただきたい。 4 協議 （1）地域公共確保維持改善事業に関する一次評価案について 事務局より説明 質疑応答なし →異議なし。承認 （2）田村市における自動運転事業について 事務局より説明 質疑応答 （委 員） ● 車両の候補案が複数あるが、どの程度の価格か。 （事務局） ● 10人乗りの車両で平均して5,000～6,000万円程度。 （委 員） ● 資料3に掲載している車両の価格は。また、経費は補助金で賄えるのか （事務局） ● P5のROBOBUSが4～5,000万円でP7のアルファバスが5～6,000万円を見込んでいる。車両の購入費は国の補助で100%補助。約1億円のランニングコストの経費を確保するために、利便増進	

実施計画を策定し、特別交付税措置などを受けて自己負担が1～2割となれば実用化したいと考えている。

(委 員)

- 中国製の車両については、ソフトウェアも中国製か。

(事務局)

- ソフトウェアは今年度の実証事業で委託をしたBOLDLY株式会社が担っているため日本製である。ルート設定などにランニングコストが大きく掛かるところ。

(委 員)

- 約1億円のランニングコストは何台でかかるのか。

(事務局)

2台の運行で約1億円である。

(委 員)

- タクシー事業者に協力いただき、無償で運行する方が良いのではないか。

(事務局)

- おっしゃるとおり、らくらくタクシーの運行経費が約1億円なので単純に経費で考えると、今の運行の2倍できることになる。
- 市としては、今後20～30年先のまちづくりを今から考えているところ。公共交通を自分事として投資していくという気持ちでやっていきたい。今回金額等を掲示したのも皆様と協議したいと考えていたため。

(委 員)

- 自動運転の視察にくることで、交流人口が増えるという効果も期待できる。経費だけの議論ではない、副次的な効果も考えて判断出来れば。

→異議なし。承認

5 その他

(委 員)

- 都路地区で導入検討を開始するライドシェアについて、早めの取組をお願いしたい。

(事務局)

- 運営するNPO法人があれば実行に向けて進めていきたいと考えている。運転手が高齢者になってしまうことが懸念。担い手がいればご紹介いただきたい。

(委 員)

- S u i c a のエリア拡大についてどのように考えているか。

(事務局)

- 2027年にQRの導入を予定しており、今後決済システムが置き換わる

(事務局)

- 団体臨時列車を来年度も予定している。地元の商工会を中心にやりたいので、ご協力をお願いしたい。

6 閉会